

来週の「売り物」記事はこれ



2012年9月28日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

大型ルポシリーズ「S（ストーリー）」

日はまた昇る JAL再離陸への軌跡

朝刊 30日（日）



一度は破綻しながら、わずか2年7カ月で再上場を果たした日本航空。膨大な公費を投じての「救済劇」に同業者などから批判の声も上がりますが、再生にいたるまでの道のりは苦難続きだったといいます。「親方日の丸」意識が覆っていた「社風」の大変革にはじまって、さらには、リストラという名の究極のコストカットの断行……。残る者、去る者も地獄、さらにその選別を担う担当役員もまた、「重圧」で追い詰められたといいます。2年余の間に、何がJALを変貌させたのでしょうか。ベテラン経済記者が、再生劇の立役者、稲盛和夫名誉会長、植木義晴社長らへの長時間インタビューを通して、「再生への道のり」を徹底して描き出します。



日曜朝は『S』で始まる——。ご期待ください。

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

元銀行マンで、環境ビジネスなどのアドバイスを行う

立教大特任准教授 見山謙一郎さん

10月2日から

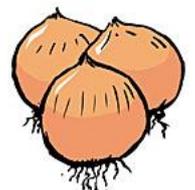


環境ビジネスや地域活性化のアドバイスをするコンサルタント会社の代表で立教大特任准教授の見山謙一郎さん（45）＝写真。メガバンクの大企業担当という花形の職を投げ捨て、アーティストの出資で環境事業に融資するNPO（非営利法人）バンク、a p b a n k に飛び込んだ見山さん。環境問題に金融やビジネスという視点を持ち込み、様々な事業を育ててきました。途上国の持続可能な発展という観点から、バングラディッシュの生活向上と現地での日本企業の成長を両立させる取り組みも進めています。

秋タマネギをおいしく食べたい

くらしナビB面 10月2日（火）

北海道産のタマネギが出回り始めました。春の新タマネギに比べてずっしり重く、日持ちします。加熱することで甘みがぐんと増す秋タマネギでスープ、煮込み、炒め物を楽しみませんか。料理家の牧野直子さんに聞きました。



日本人の魚離れ

くらしナビA面 10月3日(水)



日本人の魚離れが進んでいます。若者だけでなく、50歳以上の中高年でも魚の消費が減り、肉類を好む傾向が強まっています。研究者によると、家庭の魚調理離れが影響しているとか。水産国日本で何が起きているかをレポートします。

中高年の登山ファッション

くらしナビB面 10月4日(木)

山歩きを楽しむ中高年がどんどん増えています。東京・原宿のアウトドアショップでは、中高年がおしゃれな登山用の服や道具を買いそろえる姿が見られます。しかし、山には危険もあります。防寒など最低限の機能性も必要です。どんな点に注意して登山用品を選べばいいか、ポイントを紹介します。



連載企画「暴排の現場から」

夕刊社会面 1日から



暴力団排除条例が全国で施行されてから10月1日で、1年を迎えます。

これにあわせて1日から夕刊社会面で連載企画「暴排の現場から」を3回掲載します。暴力団排除条例はあらゆる営業活動における契約で、後付けでも暴力団などと判明した場合には、契約を解除できるなどとした条例で、昨年10月に東京都と沖縄県で施行されたことで全国に整備された条例です。暴力団の資金源を断つことを目的としたものです。この1年間の施行後の状況や課題を報告します。

原子力、橋下現象、領土問題…

今こそ読み返したい生誕110年の小林秀雄

夕刊特集ワイド面 10月2日(火)

もの言えはネットで攻撃され唇寒しのニッポン。そんな今、「批評の神様」と呼ばれた小林秀雄(1902~83) =写真=の著書などを読み返してみると、この国に起きている現象を理解するヒントがあった。小林は、世界で初めて原発が稼働する54年の6年前に「人間は自分の発明した技術に対して復讐されない自信があるかどうか」と物理学者の湯川秀樹に問いかけた。「考えるヒント」の中には、「大衆は小さな嘘には警戒心が強いが、自分たちが恥ずかしくてとてもつけない大嘘を真に受けるのは、極く自然な道理である。大政治家の狙いは其処にある」という趣旨のことを記している。橋下徹大阪市長率いる「日本維新の会」が出した「維新八策」をはじめ総選挙が近づくと政党や政治家からさまざまな約束が発せられるだろう。小林の言葉を心にとめたい。

